

PAT-NO: JP404183797A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 04183797 A

TITLE: ODOR-MASKING BASIC AMINO ACID FATTY  
ACID SALT  
COMPOSITION

PUBN-DATE: June 30, 1992

INVENTOR-INFORMATION:

NAME  
KOBAYASHI, TOMIO  
UENO, ISAMU  
KOBAYASHI, TORU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME  
AJINOMOTO CO INC

COUNTRY  
N/A

APPL-NO: JP02313130

APPL-DATE: November 19, 1990

INT-CL (IPC): C11D003/50, A61K007/00 , A61K007/46 ,  
C11B009/00 , C11D001/10

US-CL-CURRENT: 510/101

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide the title composition capable of  
formulation into  
cosmetics, solid soaps, liquid detergents etc., giving  
favorable use feeling,  
containing specified amount of perfume(s) such as  
hexylcinnamic aldehyde.

CONSTITUTION: The objective composition containing 0.01-  
5wt.% of at least  
one kind of perfume selected from hexylcinnamic aldehyde,  
benzyl aldehyde,

citronellal, musk ketone, methylionone, ionone, damascone,  
coavone, allyl  
cyclohexylpropionate, benzyl acetate, amyl acetate,  
&gamma;-undecalactone,  
linaryl acetate, coumarin, methyl anthranilate, hexenyl  
acetate, isobornyl  
acetate, &beta;- naphthyl methyl ether, diphenyl ether,  
cineole, DL-ambrox,  
dodecahydrotetramethylfuran, citronellylnitrile and leaf  
alcohol.

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&Japio

## ⑫ 公開特許公報(A) 平4-183797

⑮ Int.Cl.<sup>5</sup> 識別記号 庁内整理番号 ⑬ 公開 平成4年(1992)6月30日

C 11 D 3/50		7614-4H
A 61 K 7/00	C	9051-4C
	D	9051-4C
7/46	3 0 1	9051-4C
C 11 B 9/00	Z	2115-4H
C 11 D 1/10		7614-4H

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全10頁)

⑭ 発明の名称 臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物

⑰ 特 願 平2-313130

⑱ 出 願 平2(1990)11月19日

⑲ 発 明 者 小 林 富 男 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の素株式会社中央  
研究所内

⑲ 発 明 者 上 野 勇 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の素株式会社中央  
研究所内

⑲ 発 明 者 小 林 亨 神奈川県川崎市川崎区鈴木町1-1 味の素株式会社内

⑲ 出 願 人 味の素株式会社 東京都中央区京橋1丁目15番1号

## 明 細 書

## 1. 発 明 の 名 称

臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物

## 2. 特 許 請 求 の 範 囲

1) ヘキシルシンナミックアルデヒド、ベンジルアルデヒド、シトロネラール、ムスクケトン、メチルイオノン、イオノン、ダマスコン、コッポ、シクロヘキシプロピオン酸アリル、酢酸ベンジル、酢酸アミル、アーウンデカラクトン、酢酸リナリル、クマリン、アンスラニル酸メチル、ヘキセニルアセテート、フルーテート、イソボニルアセテート、β-ナフチルメチルエーテル、ジフェニルエーテル、シネオール、DL-アンボロックス、ドデカヘドロテトラメチルフラン、シトラバ、シトロネリルニトリル、リーフアルコールのうち少なくとも一種類の香料を0.01~5重量%含有してなる臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物

2) ヘキシルシンナミックアルデヒド、ベンジ

ルアルデヒド、シトロネラール、ムスクケトン、メチルイオノン、イオノン、ダマスコン、コッポ、シクロヘキシプロピオン酸アリル、酢酸ベンジル、酢酸アミル、アーウンデカラクトン、酢酸リナリル、クマリン、アンスラニル酸メチル、ヘキセニルアセテート、フルーテート、イソボニルアセテート、β-ナフチルメチルエーテル、ジフェニルエーテル、シネオール、DL-アンボロックス、ドデカヘドロテトラメチルフラン、シトラバ、シトロネリルニトリル、リーフアルコールのうち少なくとも一種類の香料を0.01~5重量%含有してなる臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物を0.1~50重量%及び、水を99.9~50重量%含有してなる液体洗淨剤組成物

3) ヘキシルシンナミックアルデヒド、ベンジルアルデヒド、シトロネラール、ムスクケトン、メチルイオノン、イオノン、ダマスコン、コッポ、シクロヘキシプロピオン酸アリル、酢酸ベンジル、酢酸アミル、アーウンデカラクトン、酢

酸リナリル、クマリン、アンスラニル酸メチル、ヘキセニルアセテート、フルーテート、イソボニルアセテート、 $\beta$ -ナフチルメチルエーテル、ジフェニルエーテル、シネオール、Dレ-アンボロックス、ドデカヘドロテトラメチルフラン、シトラバ、シトロネリルニトリル、リーフアルコールのうち少なくとも一種の香料を0.01~5重量%含有してなる臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物を97~70重量%及び、水を3~30重量%含有してなる固形化粧料組成物

### 3. 発明の詳細な説明

#### 〔産業上の利用分野〕

本発明は化粧料、トイレットリー分野に用いられる界面活性剤及びこれを配合してなる液体洗淨剤組成物、化粧料に関する。

#### 〔従来の技術〕

塩基性アミノ酸脂肪酸塩は界面活性能があることは良く知られている。しかし、原料である脂肪酸由来の脂肪酸臭及び塩基性アミノ酸由来の特有の塩基性アミノ酸臭が複雑に残存し、化粧料等に

プロピオン酸アリル、酢酸ベンジル、酢酸アミル、 $\gamma$ -ウンデカラクトン、酢酸リナリル、クマリン、アンスラニル酸メチル、ヘキセニルアセテート、フルーテート、イソボニルアセテート、 $\beta$ -ナフチルメチルエーテル、ジフェニルエーテル、シネオール、Dレ-アンボロックス、ドデカヘドロテトラメチルフラン、シトラバ、シトロネリルニトリル、リーフアルコールのうち少なくとも一種の香料を0.01~5重量%含有してなる臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物（以下塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物と略す）、これを0.1~50重量%及び、水を99.9~50重量%含有してなる液体洗淨剤組成物、及び固形化粧料組成物に関する。本発明に用いられるマスキング効果がある香料のうちアルデヒド類としては、ヘキシルシンナミックアルデヒド、ベンジルアルデヒド、シトロネラール、ケトン類としては、ムスクケトン、メチルイオノン、イオノン、ダマスコン、コァボン、エステル類としては、シクロヘキシルプロピオン酸アリル、酢酸ベンジル、酢酸ア

ミル、 $\gamma$ -ウンデカラクトン、酢酸リナリル、クマリン、アンスラニル酸メチル、ヘキセニルアセテート、フルーテート、イソボニルアセテート、エーテル類としては、 $\beta$ -ナフチルメチルエーテル、ジフェニルエーテル、シネオール、Dレ-アンボロックス、ドデカヘドロテトラメチルフラン、ニトリル類としては、シトラバ、シトロネリルニトリル、アルコール類としては、リーフアルコールを挙げることができる。

#### 〔発明が解決しようとする問題点〕

脂肪酸及び塩基性アミノ酸に由来する特有の臭気をマスキングし、塩基性アミノ酸脂肪酸塩を化粧品等にも使用しうる界面活性剤とすることにある。

#### 〔問題点を解決するための手段〕

本発明者らは上記問題点を解決すべく約100種の香料について鋭意検討した結果、特定の香気化合物を塩基性アミノ酸脂肪酸塩に配合することにより、塩基性アミノ酸脂肪酸塩の独特の臭気をマスキングできることを見だし本発明を完成させるに至った。すなわち、本発明は、ヘキシルシンナミックアルデヒド、ベンジルアルデヒド、シトロネラール、ムスクケトン、メチルイオノン、イオノン、ダマスコン、コァボン、シクロヘキシル

ミル、 $\gamma$ -ウンデカラクトン、酢酸リナリル、クマリン、アンスラニル酸メチル、ヘキセニルアセテート、フルーテート、イソボニルアセテート、エーテル類としては、 $\beta$ -ナフチルメチルエーテル、ジフェニルエーテル、シネオール、Dレ-アンボロックス、ドデカヘドロテトラメチルフラン、ニトリル類としては、シトラバ、シトロネリルニトリル、アルコール類としては、リーフアルコールを挙げることができる。

尚、アルデヒド類のうち、脂肪族アルデヒド、テルペン系アルデヒド、エステル系の低級脂肪族アルデヒドは、マスキング効果の経時安定性が悪く、また、アルコール類は一般的に香りが弱くマスキング効果が好ましくなかった。これら香料は、単独で用いても有効なマスキング効果は得られないが、香料の嗜好については個人差が大きいので、これら香料をマスキング効果ある香料で希釈して用いることは差支えない。本発明の組成物の構成成分である塩基性アミノ酸脂肪酸塩の塩基性アミノ酸成分はリジン、オルニチン、アルギニンを挙

げることができる。これらのアミノ酸はL体、D体または、DL体いずれでも良い。本発明の組成物の構成成分である塩基性アミノ酸脂肪酸塩の脂肪酸は、飽和脂肪酸、または不飽和脂肪酸のいずれでも良く、又、その炭素鎖は直鎖型に限定されず、分岐型のものも使用することができる。尚、水酸基等の置換基を有する脂肪酸でも差し支えない。これらの脂肪酸の代表的なものとして、カプリル酸、カプリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸、リシノール酸、エライジン酸、ペヘニン酸、イソステアリン酸、ヤシ油脂肪酸、硬化牛脂脂肪酸、パーム油脂肪酸、トール酸、大豆油脂肪酸などを挙げることができる。前述の塩基性アミノ酸及び脂肪酸は単品でも良く、二種以上を混合されていても差し支えない。

本発明の組成物を得るには、塩基性アミノ酸脂肪酸塩に該香料を通常用いられる方法で添加すれば良い。香料の添加量は組成物に対し0.01～5.0%が望ましい。5.0%以上だと香料の臭

剤、オリーブ油、スクワラン、ホホバ油、ラノリン等の動植物油、流動パラフィン、シリコンオイル、ワセリン等の鉱物系油脂、イソプロピルミリスレート、合成ポリエーテル、オクチルドデカノール等の合成油系、N-(2-ヒドロキシエチル)-N-[ビス(2-カルボキシエチル)アミノエチル]ラウリルアミドジナトリウム塩、2-ココイル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリウムベタイン、 $N^{\alpha}$ 、 $N^{\alpha}$ -ジメチル- $N^{\epsilon}$ -アシルリジン等の両性界面活性剤、アルキルトリメチルアンモニウムクロライド、ジアルキルジメチルアンモニウムクロライド、脂肪酸アシルアルギニンエステル等のカチオン界面活性剤が挙げられる。又、粉体成分としては、タルク、カオリン、二酸化チタン、チタン被覆雲母、雲母、酸化鉄、珪酸、群青、紺青、亜鉛華、クレー、沈降炭酸カルシウム、オキシ塩化ビスマス、ベントナイト、モンモリナイト等の無機粉体、N-モノ長鎖アシル塩基性アミノ酸、グアニン、ラミネート樹脂パール剤等の有機粉体が挙げられ

いが強くなり0.01%以下だとマスキングが不十分で商品価値が損なわれる。

本発明の臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物を用いて、さらに固形化粧品としての固形石鹸、液体洗淨剤組成物としてのヘアーシャンプー、ボディシャンプー、クレンジングフォーム、台所洗剤として実用的な配合組成物を得ることができる。

この配合組成物を得るためにこの他に通常化粧品等に用いられるアニオン活性剤、ノニオン活性剤、両性活性剤、カチオン活性剤、油性基剤、賦型剤、顔料、色素等他の成分を必要に応じて適宜、適量配合することにより物性の異なる化粧料を得ることができる。

ここで用いられる成分を例示するならば、N-アシルグルタミン酸塩、脂肪酸石鹸、ラウリルエーテル硫酸ナトリウム、 $\alpha$ -オレフィンスルホン酸ナトリウム、イセチオン酸ナトリウム、直鎖ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム、モノアルキルリン酸ナトリウム等のアニオン界面活性

る。更に、化粧料組成物は、通常使用される化粧助剤、例えば柔軟剤、湿潤剤、過脂剤、緩和剤、濡れ剤、保存料、消泡剤、キレート剤、保護コロイド剤、紫外線吸収剤、美白剤、菌剤、色剤、又は化粧品に通常使用される任意の他の成分を含むことができる。

臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物を0.1～50重量%及び、水を99.9～50重量%含有させ液状とすることにより液体洗淨剤組成物が得られる。それらは、ヘアーシャンプー、ボディシャンプー、クレンジングフォーム、台所洗剤等である。このときの、液体洗淨物の濃度は0.1%以下だと、泡立ち、洗淨力等が悪く洗淨剤とそての性能がなく、又、50%以上だと溶解性が悪くなり析出、ゼリー状態となり液体を維持することが困難となる。好ましくは10～40重量%、更に好ましくは25～35重量%である。本発明の臭気マスキング塩基性アミノ酸組成物を0.1～50重量%含有してなる液体洗淨剤組成物には既述した通常用いられる他の成分を必要

に応じて適宜、適量配合することができる。

ここで用いられる公知のこれらの成分を例示するならば、例えば任意成分としては、N-アシルグルタミン酸塩、脂肪酸石鹼、ラウリルエーテル硫酸ナトリウム、 $\alpha$ -オレフィンスルホン酸ナトリウム、イセチオン酸ナトリウム、直鎖ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム、モノアルキルリン酸ナトリウム等のアニオン界面活性剤、オリーブ油、スクワラン、ホホバ油、ラノリン等の動植物油、流動パラフィン、シリコンオイル、ワセリン等の鉱物系油脂、イソプロピルミリスレート、合成ポリエーテル、オクチルドデカノール等の合成油系、N-(2-ヒドロキシエチル)-N-[ビス(2-カルボキシエチル)アミノエチル]ラウリルアミドジナトリウム塩、2-ココイル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリウムベタイン、 $N^{\beta}$ 、 $N^{\alpha}$ -ジメチル-N $^{\epsilon}$ -アシルリジン等の両性界面活性剤、アルキルトリメチルアンモニウムクロライド、ジアルキルジメチルアンモニウムクロライド、脂肪

と代替し固形化粧料を得ることもできる。その配合量は用いる素材により一概には規定できないが配合組成物が固形であれば良い。その他にも通常化粧料等用いられる他の成分を必要に応じて適宜、適量配合することができる。

ここで用いられる公知のこれらの成分を例示するならば、例えば任意成分としては、N-アシルグルタミン酸塩、脂肪酸石鹼、ラウリルエーテル硫酸ナトリウム、 $\alpha$ -オレフィンスルホン酸ナトリウム、イセチオン酸ナトリウム、直鎖ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム、モノアルキルリン酸ナトリウム等のアニオン界面活性剤、アミノ酸、ピロリドンカルボン酸、クエン酸、乳酸及びこれらの塩、アルギン酸塩、エチレングリコール、グリセリン、ソルビトール、水溶性部分脱アセチル化キチン、ヒアルロン酸等の保湿剤、エタノール等の溶剤、タルク、マイカ、二酸化チタン等の無機粉体、グアニン、N-長鎖アシル塩基性アミノ酸等の有機粉体及び防腐剤、酸化防止剤、漂白剤、色剤、キレート剤等の少量成分である。

酸アシルアルギニンエステル等のカチオン界面活性剤、アミノ酸、ピロリドンカルボン酸、クエン酸、乳酸及びこれらの塩、アルギン酸塩、エチレングリコール、グリセリン、ソルビトール、水溶性部分脱アセチル化キチン、ヒアルロン酸等の保湿剤、エタノール等の溶剤、タルク、マイカ、二酸化チタン等の無機粉体、グアニン、N-長鎖アシル塩基性アミノ酸等の有機粉体及び防腐剤、PH調整剤、養毛料、紫外線吸収剤、酸化防止剤、漂白剤、色剤、キレート剤等の少量成分である。

本発明の臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物を配合してなる固形化粧料組成物は保形性を有するために、少量の水が必須成分であり、その量は、3～30重量%である。3%以下だとバサついて固形を保持するのが難しく、又30%以上だと軟らかくなる。好ましくは、5～15重量%である。この場合臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物と水分のみでも固形化粧料が得られるが、臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物の一部を他の界面活性剤及び、賦形剤

実施例を示し本発明を詳しく説明する。

#### [実施例]

#### 試験方法

マスキング効果(臭覚による官能評価)

効果有り…○

やや効果あり…△

効果なし…×

#### 評価Ⅰ

〈手洗いによるマスキング効果の評価方法〉

パネラー20名(年齢22～48歳、男性8名女性12名)によって、本発明の臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物及び液体洗浄剤組成物及び固形化粧料について40℃の温水によって手洗い評価を行いマスキング効果の有無及び洗浄力についての評価を行った。

#### 評価Ⅱ

〈マスキング効果持続性の評価方法〉

本発明の臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物、液体洗淨剤組成物及び固形化粧料を40℃の恒温槽に30日間保存した。マスキング効果の維持についてパネラー20名(年齢22～48歳、男性8名女性12名)によって40℃の温水で手洗い評価を行いマスキング効果維持評価を行った。

#### 洗淨力試験

活性剤濃度1%溶液50mlに人工汚垢0.5gを添加しホモジナイザー(1000rpm, 5秒)で攪拌し、60秒後の泡の量を評価した。

良好…○

普通…△

悪い…×

#### 実施例1～28

下記に示した香料(No1～25)と乾燥レリジンラウリン酸塩(味の素㈱製)を所定量の割合でヘンシルミキサーを用い、温度約50℃をか

のマスキング効果と洗淨力を評価し、結果を表2-1～表2-2に併せて示した。

#### 比較例9～16

30%各種リジン脂肪酸塩の水溶液と表1-3に示した香料を表2-3に示す配合比で混合し、表2-3に示す臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物を含有する液体洗淨剤組成物を得た。これらのマスキング効果を評価し、結果を表2-3に併せて示した。

#### 実施例56 クレンジングフォーム

(A)

リジンラウリン酸塩	25重量%
ポリエチレングリコール600	10重量%
ポリエチレングリコール	5重量%
モノステアレート	
ポリオキシエチレン(20)	3重量%
ソルビタンモノステアレート	
1,3-ブチレングリコール	10重量%

けながら混合し、表1-1～表1-2に示した臭気マスキング塩基性アミノ脂肪酸塩組成物を得た。これらのマスキング効果と洗淨力を評価し、結果を表1-1～表1-2に併せて示した。

#### 比較例1～8

下記に示した香料(No26～33)と乾燥レリジンラウリン酸(味の素㈱製)を所定量の割合でヘンシルミキサーを用い、温度約50℃をか

#### 実施例29～55

10～30%各種リジン脂肪酸塩の水溶液と表1-1～表1-2に示した香料を表2-1～表2-2に示す配合比で混合し、表2-1～表2-2に示す臭気マスキング塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物を含有する液体洗淨剤組成物を得た。これら

精製水

残量

(B)

香料(実施例No26)

0.5重量%

製造法

成分Aを70～80℃で混合溶解し、次いで攪拌しながら冷却し、60℃で成分Bを添加し30℃で冷却して製品を得た。

このものは、洗淨後、皮膚にはりとしっとり感を与え、使用感に優れていた。

#### 実施例57 固形石鹸

(A)

リジンラウリン酸塩 85重量%

(B)

セタノール 5重量%

精製水 9重量%

(C)

香料(実施例No27)

1重量%

製造法

成分Bを80℃で加温溶解し、次いで攪拌しな

から冷却し、60℃で成分Cを添加し30℃まで冷却する。これに成分Aを加え、混練し、ロールで均一に混練した後、押し出し機にかけ型打ち機で成型する。

このものは、洗浄後、皮膚にはりとしっとり感を与え使用感に優れていた。

#### 実施例58 固形石鹸

(A)

リジン椰子油脂脂肪酸塩	25重量%
石鹸素地(含水率8%)	70重量%

(B)

精製水	4重量%
香料(実施例NO28)	1重量%

製造法

成分(A)に成分(B)を加え、混練し、ロールで均一に混練した後、押し出し機にかけ型打ち機で成型する。

このものは、洗浄後、皮膚にはりとしっとり感

#### 実施例60 固形石鹸

(A)

リジンラウリン酸塩	70重量%
イセチオン酸ナトリウム	15重量%

(B)

セタノール	5重量%
精製水	9重量%

(C)

香料(実施例NO28)	1重量%
-------------	------

製造法

成分Bを80℃で加温溶解し、次いで攪拌しながら冷却し、60℃で成分Cを添加し30℃まで冷却する。これに成分Aを加え、混練し、ロールで均一に混練した後、押し出し機にかけ型打ち機で成型する。

このものは、洗浄後、皮膚にはりとしっとり感を与え使用感に優れていた。

#### 実施例61 固形石鹸

を与え使用感に優れていた。

#### 実施例59 固形石鹸

(A)

リジンラウリン酸塩	41重量%
α-オレフィンスルホン酸	

ナトリウム	41重量%
-------	-------

(B)

ベヘニルアルコール	8重量%
精製水	9重量%

(C)

香料(実施NO26)	1重量%
------------	------

製造法

成分Bを80℃で加温溶解し、次いで攪拌しながら冷却し、60℃で成分Cを添加し30℃まで冷却する。これに成分Aを加え、混練し、ロールで均一に混練した後、押し出し機にかけ型打ち機で成型する。

このものは、洗浄後、皮膚にはりとしっとり感を与え使用感に優れていた。

(A)

リジンラウリン酸塩	75重量%
アミソフトHS-21(味の素工業)	15重量%

(B)

セタノール	5重量%
精製水	9重量%

(C)

香料(実施例NO27)	1重量%
-------------	------

製造法

成分Bを80℃で加温溶解し、次いで攪拌しながら冷却し、60℃で成分Cを添加し30℃まで冷却する。これに成分Aを加え、混練し、ロールで均一に混練した後、押し出し機にかけ型打ち機で成型する。

このものは、洗浄後、皮膚にはりとしっとり感を与え使用感に優れていた。

#### 実施例62 ヘアシャンプー

(A)

リジンラウリン酸塩(30%水溶液)	40重量%
-------------------	-------



## ヤシ油脂肪酸ジエタノール

アミド	5重量%
アロピレングリコール	3重量%
ピロリドンカルボン酸	2重量%
ポリオキシエチレン(40)	
ラノリンアルコール	1重量%
カチオン化セルロース	0.3重量%
防腐剤	適量

## (B)

香料(実施例NO26)	0.3重量%
-------------	--------

## (C)

精製水	残量
-----	----

## 製造法

成分A、Cを80℃で加温溶解し、次いで攪拌しながら冷却し、60℃で成分Bを添加し30℃迄冷却して製品をえた。

このものは、洗浄後、毛髪にしっとり感を与え、使用感に優れていた。

## 実施例63 ボディシャンプー

## (A)

リジンヤシ油脂肪酸塩(35%水溶液)	60重量%
ラウリルエーテル硫酸ナトリウム	20重量%
ヤシ油脂肪酸ジエタノール	
アミド	5重量%

## (B)

エタノール	5重量%
香料(実施例NO28)	0.3重量%

## (C)

精製水	残量
-----	----

## 製造法

成分A、Cを80℃で加温溶解し、次いで攪拌しながら冷却し、60℃で成分Bを添加し30℃迄冷却して製品をえた。

このものは、洗浄後、皮膚にとしっとり感を与え、使用感に優れていた。

## (A)

リジンヤシ油脂肪酸塩(35%水溶液)	60重量%
--------------------	-------

## ヤシ油脂肪酸ジエタノール

アミド	5重量%
1,3-ブチレングリコール	5重量%
防腐剤	適量
ヒドロキシエチルセルロース	3重量%

## (B)

香料(実施例NO27)	0.3重量%
-------------	--------

## (C)

精製水	残量
-----	----

## 製造法

成分A、Cを80℃で加温溶解し、次いで攪拌しながら冷却し、60℃で成分Bを添加し30℃迄冷却して製品をえた。

このものは、洗浄後、皮膚にはりとしっとり感を与え、使用感に優れていた。

## 実施例64 台所洗剤

表1-1

実施例	香料NO	香料		レーリジンラウリン酸塩 配合量(重量部)	評価Ⅰ	評価Ⅱ	洗浄力
		香料名	配合量(重量部)				
1	1	ヘキシルシナミックアルデヒド	1	500	○	○	○
2	2	ベンジルアルデヒド	1	500	○	○	○
3	3	シトロネラル	1	500	○	○	○
4	4	ムスクネトン	1	500	○	○	○
5	5	メチルイオノン	1	500	○	○	○
6	6	イオノン	1	500	○	○	○
7	7	ダマスコン	1	500	○	○	○
8	8	コアボン	1	500	○	○	○
9	9	シクロヘキシプロピオン酸アリル	2	500	○	○	○
10	10	酢酸ベンジル	2	500	○	○	○
11	11	酢酸アミル	2	500	○	○	○
12	12	γ-ウンデカラクトン	2	500	○	○	○
13	13	酢酸リナリル	2	500	○	○	○
14	14	クマリン	2	500	○	○	○
15	15	アンスラニル酸メチル	2	500	○	○	○
16	16	ヘキシニルアセテート	2	500	○	○	○
17	17	フルネート	3	500	○	○	○
18	18	イソニルアセテート	3	500	○	○	○

表1-2

実施例	香料NO	香料		レーリジンラウリン酸塩 配合量(重量部)	評価Ⅰ	評価Ⅱ	洗浄力
		香料名	配合量(重量部)				
19	19	β-ナフチルメチルエーテル	3	500	○	○	○
20	20	ジフェニルエーテル	3	500	○	○	○
21	21	シネオール	3	500	○	○	○
22	22	アンボロックス	3	500	○	○	○
23	23	シトラバ	5	500	○	○	○
24	24	シトロネリルニトリル	5	500	○	○	○
25	25	リーフアルコール	5	500	○	○	○
26	1~20		等量ずつ 計10	500	○	○	○
27	6~25		"	500	○	○	○
28	1~12		"	500	○	○	○

表 1-3

比較例	香料NO	香料		L-リジンラウリン酸塩 配合量(重量部)	評価 I	評価 II
		香料名	配合量(重量部)			
1	26	デシルアルデヒド	1	500	×	×
2	27	シトラール	1	500	×	×
3	28	バニリン	1	500	×	×
4	29	ケイ皮アルコール	1	500	×	×
5	30	ゲラニオール	1	500	×	×
6	31	メントール	1	500	×	×
7	32	酢酸セドリル	1	500	×	×
8	33	酢酸アミル	1	500	×	×

表 2-1

実施例	A リジン脂肪酸塩水溶液	B 香料NO	配合比A/B	評価 I	評価 II	洗浄力
29	L-リジン椰子油脂肪酸塩(30%)	1	99.98/0.02	○	○	○
30	L-リジンラウリン酸塩(30%)	2	99.95/0.05	○	○	○
31	L-リジンミリスチン酸塩(30%)	3	99.90/0.10	○	○	○
32	L-リジンパルミチン酸塩(20%)	4	99.85/0.15	○	○	○
33	L-リジンステアリン酸塩(10%)	5	99.80/0.20	○	○	○
34	L-リジンオレイン酸塩(10%)	6	99.70/0.30	○	○	○
35	L-リジンベヘニム酸塩(10%)	7	99.60/0.40	○	○	○
36	L-リジンイソステアリン酸塩(10%)	8	99.50/0.50	○	○	○
37	DL-リジンラウリン酸塩(30%)	9	99.00/1.00	○	○	○
38	D-リジンラウリン酸塩(30%)	10	99.50/0.50	○	○	○
39	L-リジンラウリン酸塩(30%)	11	99.95/0.05	○	○	○
40	"	12	"	○	○	○
41	"	13	"	○	○	○
42	"	14	"	○	○	○
43	"	15	"	○	○	○
44	"	16	"	○	○	○
45	"	17	"	○	○	○
46	"	18	"	○	○	○
47	"	19	"	○	○	○

表 2-2

実施例	A リジン脂肪塩水溶液	B 香料NO	配合比A/B	評価 I	評価 II	洗浄力
48	L-リジンラウリン酸塩 (30%)	20	99.95/0.05	○	○	○
49	"	21	"	○	○	○
50	"	22	"	○	○	○
51	"	24	"	○	○	○
52	"	25	"	○	○	○
53	"	26	99.50/0.50	○	○	○
54	"	27	99.00/1.00	○	○	○
55	"	28	98.00/2.00	○	○	○

比較例	A リジン脂肪塩水溶液	B 香料NO	配合比A/B	評価 I	評価 II
9	L-リジンラウリン酸塩 (30%)	26	99.95/0.05	△	×
10	"	27	"	×	×
11	"	28	"	×	×
12	"	29	"	△	×
13	"	30	"	×	×
14	"	31	"	△	×
15	"	32	"	×	×
16	"	33	"	×	×

## 〔発明の効果〕

本発明の臭気マスキングした塩基性アミノ酸脂肪酸塩組成物はこれを各種の洗浄剤の界面成分の一つとして配合することができこの洗浄剤は、洗浄後皮膚または、毛髪になめらかさとしっとり感を与え、塩基性アミノ酸及び脂肪酸由来の特有の臭いもマスキングされ、その商品価値は極めて高い。

特許出願人

味の素株式会社